

全編にみなぎる不戦の誓い

尊い戦没者を悼みながら
それぞれの体験が綴る戦争の無惨

戦後70年の節目を迎え、戦争を知らない世代が国民の大多数を占めるようになりました。

そして、戦争を体験した高齢者も次第に少なくなり、戦中戦後の生活体験を「語り伝える」ことも難しくなっています。

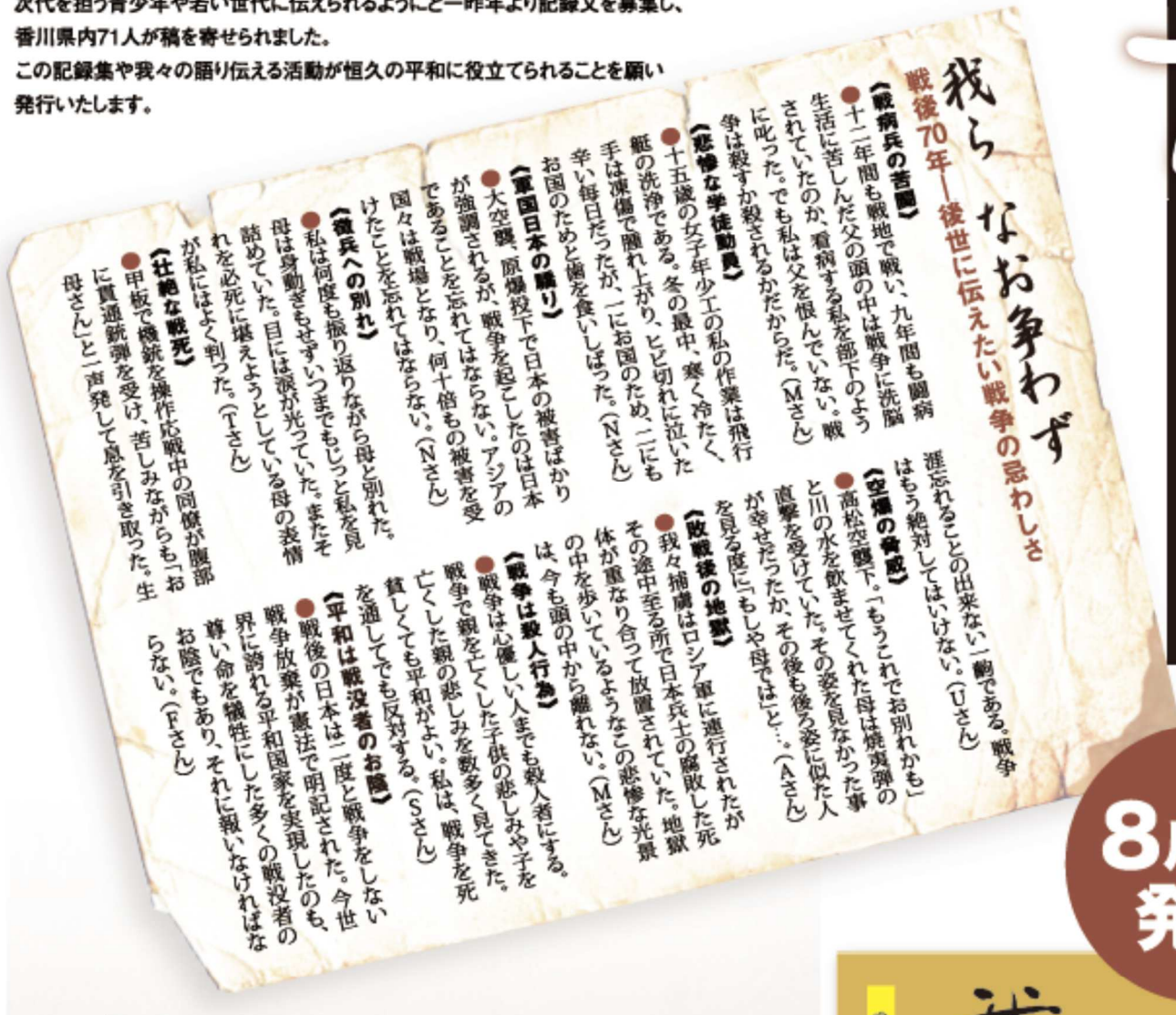
そこで、今語り伝えておかなければ…という高齢者の思いを記録集としてまとめ、

次代を担う青少年や若い世代に伝えられるようにと一昨年より記録文を募集し、

香川県内71人が稿を寄せられました。

この記録集や我々の語り伝える活動が恒久の平和に役立てられることを願い

発行いたします。



戦後70年の証言

8月1日
発行

寄せられた記録文

■小学校からの厳しい軍国教育 (8編)

師の教え/暗記させられた教育勅語/草鞋を履いて通学/…

■上官絶対で鍛えられた軍隊教練 (4編)

海軍少年兵学校/小さい兵隊さん/十五歳・少年兵のつぶやき/…

■生死をなげうった従軍最前線 (9編)

九死に一生を得て/運命の岐路/キスカ島からの生還/…

■苦難を強いられた銃後の生活 (16編)

一粒のご飯/衣料も食糧も配給制/女性の竹槍訓練/千人針の唄/…

■駆り出された勤労奉仕と学徒動員 (8編)

小学一年生の勤労奉仕/朝は朝星夜は夜星/幼稚な飛行場作戦/…

■焼野原と化した高松空襲 (16編)

焼死体に「ごめん」/生きて父の所へ/焼夷弾の脅威/…

■戦後の抑留と外地からの引揚げ (8編)

遺骨なき父の葬儀/過酷なシベリア抑留/一転悲惨な境遇に/…



記録集『我ら なお争わず』の発行について

～戦後 70 年－後世に伝えたい戦争の忌わしさ～

趣 旨 戦後 70 年の節目を迎え、戦争を知らない世代が国民の大多数を占めるようになりました。戦争を体験した高齢者も次第に少なくなり、戦中戦後の生活体験を「語り伝える」ことも難しくなっています。そこで、今語り伝えておかなければ…という高齢者の思いを集め、次代を担う青少年や若い世代に伝えられるよう貴重な体験談や記録文をまとめ、このほど『我ら なお争わず ～戦後 70 年－後世に伝えたい戦争の忌わしさ～』と題する本にいたしました。この記録集とともに我々の「語り伝える活動」が恒久の平和に役立てられることを願い発行いたします。

発 行 平成 27 年 8 月 1 日  公益財団法人 香川県老人クラブ連合会

内 容 戦争体験や戦中戦後の生活体験、後世に伝えたい戦時下の暮らし、戦争にまつわるエピソードなど香川県内の高齢者による記録文 69 編

体 裁 等 B5 版 264 ページ くるみ表紙

代 金 1 冊 1,300 円 (税込) ※荷造・送料 1 冊 200 円

申込方法 希望者は、下記申込書により、FAX、郵送等にて本会あてお申込みいただき、併せて代金を送金願います。入金確認後、送付いたします。**2 冊以上お申込みの場合、送料実費の後払い**となります。請求書により後日送金ください。完売の折はご容赦ください。

お申し込み・お問い合わせ先

ぼちぼちクラブ香川 (公益財団法人 香川県老人クラブ連合会)

〒760-0017 香川県高松市番町 1 丁目 10 番 35 号 香川県社会福祉総合センター 5 階
電話 087-832-7833 Fax 087-833-6780

【送金先】 百十四銀行 高松支店 (普) 1055663

公益財団法人 香川県老人クラブ連合会 会長 藤川泰文

※確認のため、必ず振込名義人と申込者氏名は同一でお願いします。

申込日： 年 月 日

記録集『我ら なお争わず』～戦後 70 年－後世に伝えたい戦争の忌わしさ～ 申込書

申込冊数(代金)	冊 (送金日： 年 月 日)
申込者 / ふりがな お名前	
送付先 / ご住所	〒□□□ - □□□□ □□□□ □□□□ 県 市 郡 □□□□ 町 □□□□
お電話	電話番号 □□□□ - □□□□

参考 ※一部ですが皆様からの感想をご紹介します。

実際に体験された方の文章を拝読させていただき、涙が出ました。
発行に当たり、素人の文章は校正にお手数をおかけした事とお察しいたします。
さらに、参考文献に基づき、各ページ下欄に難解な当時の言葉を分かりやすく解説され、
戦後生まれの人びとにはよく理解されると思います。(高松市・80歳・男性)

昭和16年生まれの私には、戦争の記憶はほとんど残っていない。
この本を読んで戦争が多くの人・家族を不幸に陥れた罪は今更ながら大きいことを思い知らされる。
多くの人々の犠牲の上に今日の平和があることを忘れないでいきたい。(高松市・73歳・男性)

姉から連絡があり、兄弟集合の号令がかかり私は何事かと急いで車で飛ばした。行ってみると
姉が一冊の本を見せてくれました。その中には、私たちの兄のこと、子供の頃のことが書かれて
一冊の本になっていて、昔の記憶が鮮明に蘇り涙が止まらず、戦争の悲惨さを思い出しました。
この文集を私の家宝としてみんなに読み聞かせたい。ありがとうございました。(高松市・83歳・女性)

関係者の方々、誠にご苦労様です。立派に編集できたことを厚くお礼申し上げます。
自分の少年時代のことの記載ができて、大変うれしく思います。老人会、長寿大学、合唱、農業、詩吟
等出来る限り頑張っています。紙上を借りて厚くお礼申し上げます。(丸亀市・79歳・男性)

昭和16年8月、父は白地の着物を着て三谷八幡宮の横の道に姿は消えた。
母さんの言うことを聞くんやで、と言って行きました。私はうんと返事をした。それが最後の会話でした。
18年10月5日フィリピンで戦死しました。(高松市・80歳・女性)

私が想像していたよりも素晴らしい本になり感激しています。
老連編集委員の皆様へのお礼の気持ちを込めて昨年末までのアンケートの結果を報告させていただきます。
まだまだ返本してくれていない人や買いたいという人もいます。
基調な宝物だ、涙をふきつつ読んだという人が多かったです。…(高松市・83歳・女性)

末尾の編集委員会の「あとがき」が本書の意義を余すところなく言い得て妙。
戦争の不条理、残酷、悲惨を皆さんの体験を通し、地の叫びを表していることに涙し、
平和を希求する思いを新たにできました。ありがとうございました。(坂出市・83歳・男性)

戦時中のいろいろな出来事が多くの方々の体験記を読むことで思い出され、
また想像以上の苦労をされた方もおられたのがよくわかりました。
若いものに読んでもらって戦争中の苦労を分かってもらったらよいのですが、
戦後生まれのものは興味がないようで読んでくれません。(坂出市・85歳・男性)

様々な体験の持つ迫力で圧倒された。歴史の証言として実に貴重だ。
戦後世代の人には是非読んでもらいたい。企画発刊への努力された関係者の方々の労を多としたい。
(高松市・72歳・男性)